

ハーブ・生薬・サプリメントの安全性確保とモニタリング手法
The safety securing and the herbal vigilance of herbal medicines, finished herbal products and supplements

鳥居塚 和生¹, 津谷 喜一郎² (¹昭和大学 薬学部, ²東京大学大学院 薬学系研究科)

国際的にハーブ・生薬・サプリメント・健康食品などの消費が増加してきている。これらに関する情報もあふれておりインターネットを介してアクセスや、海外からの個人輸入も容易な状況になっている。しかし「自然のものだから副作用も少なく、安全性が高い」というイメージだけが先行している現在の状況では、健康被害や有害事象の発生にいたる危険性がある。一方ではインターネットの普及とともに、欧米からの無免許医薬品やダイエットサプリメントの流入があり、また一方では健康食品という枠での取扱いでは有害事象、副作用の報告制度の対象外になっているなど、取締りや情報の発信が後手になってしまうことが懸念される。健康危機事例情報システム、食品苦情処理システム、健康危害物質別の事例検索システムなど既に構築されているシステムが機能しているが、これに加えて安全性確保のための様々なメディアからの情報を如何に統合的にモニタリングし発信するか方法論の見直しを含めて、社会に対する薬学が果たすべき責務の一つといえよう。また未知の物質による有害事象に対しては、その原因物質をいち早く解明し、最適の対処を提示できるシステムの構築も課題であろう。そのためには情報処理や医療系の分野はもとより、物質の解析と対応策の構築に、生薬学や天然物化学の分野の果たす役割は大きいといえる。本シンポジウムでは、これらの責務を如何に果たしていくか、その資料となるべき話題を提供いただき課題や問題点を浮き彫りにしたいと考えている。